

雪印おすすめの野菜品種紹介2018

はじめに

弊社は1952年より野菜種子の販売を開始し、より生産性が高く、特産となるような高付加価値の品種を目指して開発を続けてきました。本稿では、最近販売を開始したおすすめ品種を中心にご紹介いたします。

1. エダマメ

極早生品種から中晩生品種まで幅広いラインナップを取り揃えておりますが、さらに新品种「神風香（かみふうか）」（写真1）が今年より本格発売開始となりました。

弊社では、食味にこだわって育成された次世代のエダマメ「豊熟の味わい」シリーズとして、早生種の「味風香（あじふうか、登録名：GLYSB1019）」、中早生種の「夏風香（なつふうか）」を販売しており、「神風香」はシリーズ第3弾となります。大莢で3粒莢・4粒莢の割合がとて高く、食味に優れた極早生品種です。関東平坦地の場合、種まき後75日前



写真1 神風香（豊熟の味わいシリーズ）

後で収穫できます。主茎が短くコンパクトにまとまるため、束出荷にもおすすめです。

「味風香」「夏風香」と併せて栽培すれば、食味に優れたエダマメを長期間リレー出荷することができます。



写真2 サヤムスメ（販売30周年、濃緑で大莢）

「味風香」「夏風香」は販売から数年経ちましたが、おかげ様で好評いただいております。「夏風香」は、第67回全日本野菜品種審査会にて銀賞を受賞することができました。

これからエダマメがおいしい季節がやってきます。「豊熟の味わい」シリーズとともに夏のひとときを過ごしてみたいはいかがでしょうか。

弊社で最も販売されているエダマメは、販売から40年以上経過した「サッポロミドリ」ですが、それに次ぐ「サヤムスメ」（写真2）も長年ご愛顧いただいております。今年で販売30年を迎えます。関東平坦地の場合、種まき後85日前後で収穫できる中早生品種です。濃緑色で大きい莢、根張り・耐病性に優れた特性を持っています。

さらに通常の作型はもちろん、「抑制栽培」にも適しています。抑制栽培とは、夏場に種をまき、10-11月に収穫する作型のことです。通常より遅く収穫でき、晩生品種と違って約60-65日という短い期間で栽培することができますが、品種によっては莢色が極端に淡くなったり、莢が小さくなったりしてしまいます。しかし「サヤムスメ」の場合は、抑制栽培でも同様の特性を維持したまま収穫できます。昼夜の温度差により非常に甘くおいしいエダマメを作ることができますので、是非お試しください。

2. スイートコーン

弊社では、青果向きスイートコーン「ミエルコーン」シリーズを展開しています。「ミエル (Miel)」とはフランス語で「ハチミツのような甘さ」を意味しており、食味を重視して有望な系統を選抜しています。その中から、最近販売を開始した2品種をご紹介します。

一つ目は、今年新発売の「ミエルコーン84」(写真3)です。その名の通り、関東平坦地のマルチ・露地栽培の場合は種まき後84日程度で収穫できる早生種です。早く収穫する作型では、ハウス栽培やトンネル栽培に合う品種が求められています。「ミエルコーン84」は、ハウス栽培やトンネル栽培でも生育が安定し、穂の先端までしっかりと実が入りま



写真3 ミエルコーン84 (甘みが強くジューシーな早生種)



写真4 耐倒伏性に優れるミエルコーン89
(左：ミエルコーン89、右：他品種)



写真5 栗天下 (甘みの殿様カボチャ)

す。さらに、甘みが強くジューシーで、おいしい品種です。

もう一つは、昨年より販売を開始した「ミエルコーン89」です。こちらは、関東平坦地で種まき後88~89日で収穫できる中生種です。夏場のスイートコーン栽培は、台風や強風により倒伏してしまうことが多々あります。しかし「ミエルコーン89」は根張りに優れ倒伏しにくく、安定的に栽培できます(写真4)。穂は比較的長めで大型となります。さらに、甘みが強く食味が良好です。実の皮が軟らかすぎず、収穫後のしわが出にくいいため、長距離輸送にも適しています。

3. カボチャ

昨年より「栗天下 (くりてんか)」(写真5)の販売を開始しました。おかげ様で、栽培地や青果物販売先で特に食味について高い評価を頂いております。粉質が強く甘みがあり、とてもおいしい品種です。青果物の形状はやや甲高、肉厚で果肉色が鮮やかであるためカット販売にも適しています。

また、糖化がやや遅く果皮の色あせが遅いため、貯蔵にも向いています。ニュージーランドやメキシコなどの海外産カボチャが冬至の時期から春にかけて、多く見られますが、東京都中央卸売市場の月報によると、2017年に入荷したカボチャの約40%は海外産だったそうです。「栗天下」の貯蔵適性が、国産カボチャの増産に一役買うことを願っております。

4. ダイコン

ダイコンの旬といえば秋冬ですが、様々な地域・作型で栽培されるため、一年中店頭に並んでいます。農林水産省の平成28年産作況調査によると、ダイコンの作付状況は図1の通りです。弊社では春ダイコンを中心に品種開発を進めてきましたが、最近では夏ダイコン・秋冬ダイコンの開発にも力を入れて

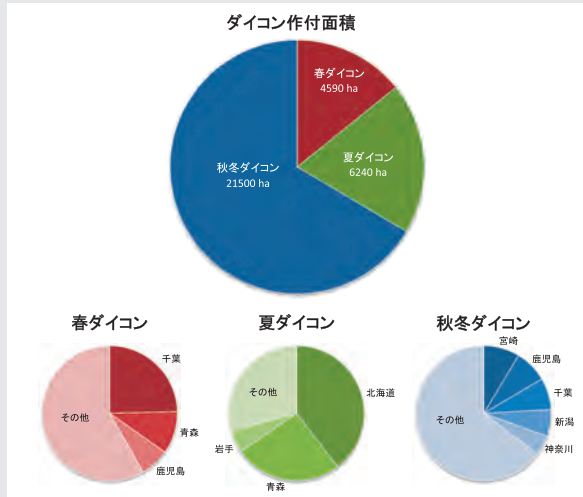


図1 ダイコンの作付状況
(農林水産省平成28年産作況調査より)

います。

2016年から、夏ダイコン「夏巡り（なつめぐり）」（写真7）を新発売しました。野菜の輪作を行うと土が肥沃になりやすく、そのような土地でダイコンを栽培すると、品種によっては過剰な肥効により根が曲がるなど品質低下につながります。「夏巡り」は、そのような肥沃条件にぴったりのダイコンです。葉が小さくおとなしく、高温期でも根形がくずれにくいという特徴があります。軟腐病に強く晩抽性で、高冷地～一般地・暖地の栽培に適しています。

今年夏からは、秋冬ダイコンの販売開始を予定しております。引き続き、ダイコンのラインナップを強化していきます。

5. レタス

昨冬は天候不良や厳しい寒さにより、野菜の価格が高騰しました。農林水産省の食品価格動向調査によると、レタスの価格は平年の約2.4倍まで跳ね上がったそうです。お財布に厳しい状況が続く中、いつも同じ価格で販売されている施設栽培のレタスに手を伸ばした方も多いのではないのでしょうか。近年レタスの施設栽培が全国的に増加しており、スーパーでも普通に見かけるようになりました。

弊社では、2015年からレタス「フレアベル（写真



写真6 夏巡り（軟腐病に強く肥沃な土地に適した夏ダイコン）



写真7 フレアベル（柔らかな食感のレタス）



写真8 フリルアイス（パリパリ食感のレタス）

8）」を販売しています。こちらの品種は畑での栽培はもちろん、水耕や植物工場等の施設栽培にも適しています。食感は柔らかく、苦味が少なく食べやすい品種です。丈が低くコンパクトにまとまりますが、葉数が多く生育が早いため、生産効率がとても良いとご好評いただいております。この他、「フリルアイス（写真9）」も施設栽培に適した品種です。「フレアベル」とは対照的にパリパリした食感が特徴です。

施設栽培は人工的な環境で生育を早めているため、露地栽培と比べて生理・生育障害が多くなる場合があります。生理障害の一つとしてチップバーン（葉の先が枯れてしまう症状）が挙げられますが、「フリルアイス」と「フレアベル」は比較的チップバーンが発生しにくく、安定して生産できます。

今後も様々な気候変動が予測されていますが、これら2品種がレタス生産の一助となれば幸いです。

さいごに

弊社おすすめの品種を5品目にわたってご紹介いたしました。今後もお客様のニーズを汲み取り、鋭意開発に努めて参りますので、気になる品種がありましたらお試しください。

本稿でご紹介した品種の他にも、様々な品種・品目を販売しております。詳しくは牧草と園芸別冊野菜特集号をご参照下さい。